

## ワークショップ 6

### 「消化管癌ゲノム研究の最前線」

司会 五井 孝憲（福井大学医学部医学科器官制御医学講座外科学(1)）

岩槻 政晃（熊本大学大学院生命科学研究部消化器外科学）

近年、分子生物学的手法の開発により、消化管癌の診断・治療にパラダイムシフトが起きている。特にがんゲノム研究の発展により、発がんや転移、薬剤耐性の分子メカニズムが次々と明らかになり、創薬やバイオマーカーの開発へつながっている。本セッションでは、基礎から臨床にわたる幅広い視点から、消化管癌ゲノム研究に関する最新の成果を紹介していただき、precision medicine の展望を議論していただきたい。